



福中 満

ふるさと納税について

問 能勢町の取り組みは
今どうなっているか。

答 ふるさと納税には税
収増・地域産業の振興・自
治体のPR効果・町づく
りの気運醸成等のメリッ
トがある。しかし能勢町で
はふるさと納税者に対し
て特産品を送る等の制度
化を行っていないため、現
在までふるさと納税(寄
付金)の実績はなく、今の
ところふるさと納税以外
の寄付金制度により対応
している。また今後の方針
については、「歳入を増や
す観点から、ふるさと納
税制度を有効に活用する」
という基本的方向で制度
設計を推進し、能勢町の
PRを図っていきたい。その
ために町内の商工会等の
関係諸団体との連携を図
っていきたい。

獣害対策について

問 イノシシ・シカ等に
よる獣害の現状と今後の
対策について

答 昨年度(平成25年度)
の能勢町における獣害被
害額はおよそ4000万
円(実行組合調べ)。イノ
シシの捕獲数は158頭、
シカは266頭と報告さ
れている。
町内においてイノシシ
やシカが何頭くらい生息
しているのかについては、
正確な数の把握は極めて
困難とされている。
昨年度の能勢町の対策
としては、農業者みずから
が実施する有害鳥獣に対
する防獣対策への補助と
して約170万円の事業を
実施した。その防獣面積
は約25ha。電柵の設置に
対して2分の1を補助す
るこの支援制度については
本年度も住民からの需要・

一、ふるさと納税について
二、獣害対策について

要望は増加傾向にある。
現在町内の捕獲活動の
中心を担っていたいただい
て「能勢町猟友会」は、会
員数約50名。そのうち猟
銃免許を有し猟に参加さ
れている会員は約10名。昨
年度の出猟回数は毎週1
回程度、年間56回に及ぶ。
近年での毎年シカ・イノシ
シそれぞれ200頭という
捕獲状況も、猟友会の皆
さんの献身的な捕獲活動
によって確保されている。
今後の対策としては、
「各自の農産物・田畑は各
自で守る」を基本としつ
つ、電柵設置に対する支援
制度を継続する。他市町
村の猟友会とも連携し、
捕獲数のさらなる増加に
努める。またより効果的
な防獣・捕獲策を実施し
ていくために、里山再生事
業等を活用し野生鳥獣が
近寄りやすい集落環境の
整備にも努めていきたい。

一般質問



長尾 義信

公共交通の対策及びサ
ービス

問 まちづくりにおける
公共交通の果たす役割は
非常に大きい。
路線、ダイヤ、運賃など、
課題の解消を含め、住民
の移動手段を確保するた
めに、地域の実情に応じ
た、公共交通の対策及び
サービスについて問う。

答 過疎等による不採算
路線の廃線が全国的にも
相次ぐなか、本町におい
ても公共交通を取り巻く厳
しい現状、高齢化の進展
や人口減少をはじめとす
る社会情勢に鑑みると、
自助・互助・共助・公助の
枠組みの中で、公共交通
が担うべき役割について
改めて、地域に見合った持
続可能な交通体系の整理、
充実に向けて、引き続き
検討していく必要がある
と認識している。

子どものスポーツ振興
及び健全育成

問 子どもたちの元気が
地域を活性化する思いか
ら、スポーツを通して、行
政の関わり、役割。
また、平成28年度新学
校開校に伴う、学校運動
部活動の取り組み及び未
来のトップアスリート
を育む積極的な支援、推
進の考えを問う。

答 生涯体育の基礎を培
う学校教育においては、能
勢町独自の体力テストを
実施し、その分析を活か
して、体育授業の充実に
努めている。学校運動部活
動は、今年度も指導、工夫、
改善を図り、部活動サポ
ーター派遣システムを実
用化していくことが大き
な柱になると考えている。
また、有名なアスリートの
指導が直接受けられる機
会も作っていききたいと考
えている。

住民参加型のまちづく
り推進

問 「住民の皆さまと課
題やビジョンを共有し、
実現に向けて取り組む」
と聞いているが、タウン
ミーティングや町民まち
づくり協議会など実施さ
れたなかで、住民参加型
のまちづくりの取り組み、
今後の政策等の展望を問
う。

答 地域の多様な主体が
公共を形成する一員とし
て、知恵と力を出し合う
ことで、より良い地域づく
りに取り組み、町として更
なる情報発信をして、ま
ちづくりに対する理解や
共感を得ていかなければ
ならないと感じている。
今後においても、住民の
皆さまとのコミュニケーション
の場をしっかりと確保
して、共創のまちづくりの
実現に向けてなお一層の
取り組みを進めたいと考
えている。

一、公共交通の対策及びサービス
二、子どものスポーツ振興及び健全育成
三、住民参加型のまちづくり推進